



学校教育目標 ・かしこく ・やさしく ・たくましく  
児童数 男子182名 女子193名 375名

# 在家小だより

## 命を守るために

校長 渡辺 訓次

新型コロナウイルス感染拡大防止のために昨年度実施できなかった諸行事について、今年度は感染防止に努めながら可能な範囲で行っています。保護者の皆様に学校にお越しいただく機会も少々ですが増やすことができ、学校の様子を見ていただけることをうれしく思います。まだまだ、予断を許さない状況ではありますが、学校・家庭・地域で共に感染拡大防止に努め、より良い教育活動の充実が図れるよう、皆様のご理解とご協力をお願いします。

さて、この2ヶ月の間に「命を守るための学習」として、「火災発生時における避難訓練」「地震発生時における避難訓練および保護者への引渡引取訓練」「1～3年生交通安全教室」を実施することができました。それぞれの活動において、真剣に取り組む子供たちの姿がありました。

避難訓練は、日常的に起こる可能性は少ない、しかし、いつ起きるかわからない、非日常的な「もしも…」の時の学びです。今年度は上記以外に「竜巻発生時における避難訓練」「(再)地震発生時における避難訓練」「不審者侵入時における避難訓練」の他、日時や内容等を児童・教職員に通知しないで実施する「特別の避難訓練」の合計6回予定しています。一年間にわずか6回と十分な回数とは言えませんが、経験の積み重ねにより学年が上がるにつれ、身を守るための初期動作や、避難時の約束「お・か・し・も・ち」を意識して行動できる児童は確実に増えていきます。そして「もしも…」が来た時に、訓練と同じように行動することができることを願いますが、こればかりは実際にその状況にならないとわかりません。(「お・か・し・も・ち」について、ぜひお子様に何のことも尋ねてみてください。きちんと答えることができれば、避難時の行動を知識として身に付けている証となります。もし、答えられないようであれば、よい機会ですから、非常時の避難行動についてご家庭で話題にさせていただければと思います。)

交通安全教室は、「ルールを守り行動することが、自他の命を守ることにつながる」ことを学ぶ機会です。交通安全の知識は、上記のような非日常時の対応とは異なり、毎日の日常生活に直面している課題ですから、低学年の段階から当たり前のこととして身に付けさせる必要があります。統計的に見ても子供が命を落とすケースの中で最も多いのが「不慮の事故」、その中でも「交通事故」による死亡は群を抜いていますので、命に関わる事案となる可能性がとても高いのです。本校では、1・2学年時に歩行時のルールを確認し、3・4学年時に自転車乗車のルールを確認しています。学校行事として扱う回数は年に1回と少ないのですが、それは特別な確認の機会であり、むしろ日々の生活の中で、「車には気を付ける」「飛び出しをしない」「道路でふざけない」といった、交通安全を意識させる声掛け指導を、その都度繰り返し行っています。

しかしながら、ここで気を付けなければいけないことがあります。それは「慣れ」です。「もしも…」の時のような災害はあまりありませんから、訓練で身に付けた行動は、むしろ意識しやすい気がします。逆に、毎日のことである交通安全については、「今日も大丈夫だった」が繰り返され、いつしか安全に対する意識が「慣れ」となりがちです。それが油断へとつながり、注意すべきことを意識せずに見落とし、結果、毎日のように事故が起き、尊い命が奪われているのではないのでしょうか。**「ルールを守るとは、自他の命を守ること」**を忘れずに、日々行動をお願いします。